

【鳥取県の全体目標】 がんによる死亡者の減少 75歳未満がん年齢調整死亡率(人口10万対)を**61.0未満**とする
(令和10年度まで) (男女別の目標値 男性：74.0未満 女性：46.0未満)
 【中期目標】 県全体の放射線治療の活性化を図る。

前年度の目標	県内各施設の放射線治療が充実していくよう、鳥取大学を中心に連携を密にして治療に取り組む	
	前年度Plan	前年度Act
	基幹施設における高精度放射線治療・専門的治療の充実、その他県内施設における通常治療の確かかつ安全な施行	基幹施設における治療は順調に行われている。その他の施設に関する治療も堅実に施行されている。今後は現状を維持しつつ、各施設でより良い治療を心掛けることが必要と考えられる。

今年度の目標	基幹施設・及び各施設ともに現状を維持した治療を継続しつつ、各施設で安全を守りつつより良い治療を心掛ける。		
Plan(計画)	Do(実施)	Check(点検・評価)	Act(処置・改善)
基幹施設における高精度放射線治療の推進 鳥取大学病院、県立中央病院 鳥取大学病院	IMRT 定位放射線治療(SRT)：脳、肺、肝臓 画像誘導小線源治療(IGBT)：腔内照射、組織内照射併用		
県立中央病院	IMRT SRT：脳、肺		
専門的放射線治療の集約化			
鳥取大学病院	上記に加え、アイソトープ治療、前立腺癌組織内照射 ※鳥大病院では前立腺癌のRI治療により柔軟に対応する		
県立中央病院	上記に加え、アイソトープ治療		
通常照射による標準的な治療の継続的な提供			
鳥取赤十字病院 県立厚生病院 米子医療センター	県内放射線治療施設5施設のうち、これら3施設は常勤 医がない状態であり、今年度も通常照射を継続する。		
人員の増加をはかる(中長期的視点が必要)	人員の増加は中長期的目標としてこれからも継続する。		
各施設でより良い治療を心掛ける	各施設においてこれまで通りの治療を継続していただく のと同時に、施設の独自性を検討していただきより良い 治療を目指してゆく。		
安全性を常に考慮する	放射線治療の安全姿勢に関しては各施設常に念頭に置いて 治療を行ってゆく。		